

新春ならやま研修会レポート

富江 文雄

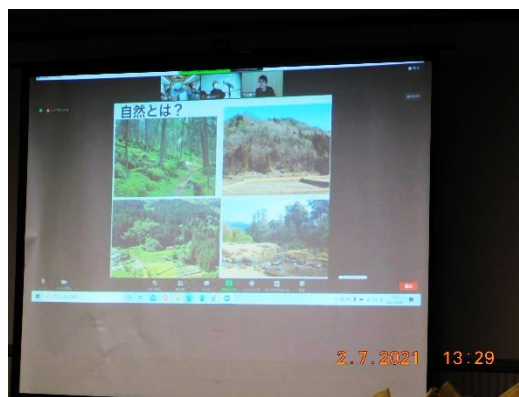
新型コロナ感染症対策の緊急事態宣言が大
阪府・京都府・兵庫県に出された関係上、初め
てZoomを使ったon line 講演会が実施された。
リガール春日野に42人の会員が集まり、感染
予防策として座席の間隔を十分とり、換気に注
意するなどの配慮がなされた。慣れないZoom
の設定に初めは多少の戸惑いはあったが、何と
か時間通りに開始できた。

鈴木会長の挨拶の後、まず最初に里山グル
ープの森英雄さんが『「ならやま」でのこれまでの
活動経緯と今後の取り組みについて』と題して
約30分の発表があった。美しい環境整備、ナラ
枯れ対策、里山再生の実験、森林資源の活用等
を取り上げ、今一番の問題は、人手不足、人材
育成であり新規参加者の積極的な勧誘が急務と
された。



これに対して黒田先生から、景観保全と美し
い景観とは必ずしも同一ではないのではないか
等のコメントがあった。

この後小休止をとり、黒田先生の紹介が鈴木
会長からあって、「都市近郊の里山資源の活用」
という表題の下、神戸大学大学院 農学研究科
黒田慶子先生による講演が約1時間あった。ま
ず、自然とは何か?から話が始まり、欧米人
には「原野」を意味することが多いが、日本人で



は必ずしもそれを意味しない、むしろ人との関
係を大切にする。

森林は日本の国土の2/3を占め、その3割が
里山林である。里山は農用林であって、広葉樹
林が中心の天然林ではない。本来の里山林は、
15~30年周期で順次に伐採、収穫し、切り株か
ら芽生えで再生する能力があり、植林不要であ
る。切った木は薪炭に使い、枯葉は肥料になる。
伐っては育てて使う効率的な資源生産である。
1950年代から里山の利用が急速に低下し、現
在放置されている所が多い。

「里山の整備とは何か」、「その具体的な手法
は」、また「里山管理の方法」等、広範な説明が
あった。

その後、質疑応答が続き、山本さんが、自然
の森と里山を分けて管理する点を質問。中井さ
んは、「ならやま」にない草木を移植する点の質
問。古川さんが「自然の森」の設定は人的な制
限があったからとの説明。最後に坂東さんから
里山林の再生に関する質問があって、講演会
が終了した。黒田先生には是非コロナ問題が終
了後、「ならやま」において頂きたいとの要望が
なされた。

